

## 第6回胃がん検診フォーラム報告抄録

### 町田市の胃がん検診が抱えていた課題

#### —課題解決のための胃がんリスク検診の導入と今後—

平賀充 山田和彦 樋口真央 広松恭子

町田市保健所

町田市は、東京都の南端に位置し、人口約43万人で都内26市の中では2番目に多い人口となっている。

町田市では胃がん対策として、1983年から胃がん検診を開始し、バリウムによる胃がん検診を実施してきた。しかし、受診者数は例年約3,000人前後と伸び悩んでいた。この原因としては、主にバリウム検査の受けにくさや検診の日程が合わないことなどが考えられた。

2013年2月に町田市と町田市医師会でがん予防対策に関して検討する会議（がん予防対策推進会議）を立ち上げ、胃がん検診が抱える課題や今後の胃がん予防対策について協議を重ねた。その結果、他の自治体で導入していた胃がんリスク検診（ABC検診）を、町田市においても2013年10月から限定した年齢帯（55歳～64歳）に対し、試行的に導入した。

導入当時はまだ、胃がんリスク検診（ABC検診）を実施している自治体は少なく、医師会の医師や市民にも胃がんリスク検診（ABC検診）とは何かを周知する必要があった。そのため、導入前に町田市では市民向けの講演会を実施し、医師会では会員向けの勉強会を行い、周知を図った。

2014年度からは、バリウムによる胃がん検診を廃止し、胃がんリスク検診（ABC検診）の対象年齢を35歳以上として、本格導入した。また町田市では、受診率向上策の一環として、40歳以上で5歳刻み年齢の受診者を無料としている（通常自己負担額800円）。さらに、この年齢帯約3万人には、個別に受診勧奨はがきを送付し、受診率向上を図っている。

胃がんリスク検診の受診者は、2015年度末現在で既に延べ4万人を超え、がん発見数も200人を超えている。胃がんを1人発見するための町田市の委託料として、バリウムによる胃がん検診では、1人当たり約300～500万円かかっていたが、胃がんリスク検診（ABC検診）のみにした場合では、約100万円と大幅に減少している。委託料を増やさずに受診者数を増やせる効果は大きい。

導入3年が過ぎ、課題もある。まずは、BCD群の継続的な内視鏡検査受診をどう保つかである。町田市では70%を超える方が内視鏡検査を受診しているが、その後のフォローがまだできていない。また、カットオフ値の設定や既除菌群の区分とその後の適切な指導も確立できていないなどの課題もある。

行政と医師会が協力し合い、こうした課題の解決を図っていくことが、町田市民のがん予防対策の充実と市民の健康維持に繋がっていくと考える。